

令和7年度 姿川第二小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

心身ともに健康で、知的好奇心と思いやりにあふれる豊かな心を持ち、社会の変化に対応してたくましく成長し続けることができる児童を育成する。

（2）具体目標（姿二の子）

健康で何事にもくじけずたくましくやりぬく子供	（がんばる子）
工夫と努力によって自ら学び続ける子供	（工夫する子）
思いやりがあり、友達と仲良く助け合う子供	（やさしい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供は地域の宝であり、子供たちの健やかな成長は地域全体の願いである。私たち教職員は保護者や地域と共通の目標を持ち、子供たちが夢を抱き未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、使命感を持ち、全力で教育にあたっていく。子供たち一人一人がより豊かで充実した学校生活を送り、よりよい生き方を目指すことができるよう、地域に根差した特色ある学校教育を推進し、知・徳・体のバランスの取れた力の向上を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学業指導の充実

各種調査を分析し、基礎・基本の定着や読解力・表現力の育成を基盤に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開し、児童が学び合える活動等を工夫し、学級を学びに向かう集団に成長させていく。

（2）心の教育・学級経営の充実

道徳科を核にした心の教育や認め励ます教育をさらに充実させ、思いやり、たくましさ、自信や自己有用感などを育み児童が互いに認め合い励ましあえる一人一人の居場所となる温かい学級づくりを推進する。

（3）体力の向上・健康の増進

教科体育の充実、外遊びの奨励等を通して体力の向上を図る。感染症予防や望ましい食習慣、生活習慣の改善などを正しく理解し健康を維持・管理する能力、及び自らの命を守り抜くために危機を回避する能力を育成する。

（4）地域に根差した活気ある学校づくりの推進

児童の主体的な活動を認め支援するとともに、地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。

（5）社会の変化に対応する力の育成

英語教育、プログラミング教育、宇都宮学など、ICTを効果的に活用しながら新たに求められる教育活動を適切に展開するとともに、SDGsに係る現代的な諸課題に対応し持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。

（6）教職員の資質の向上

キャリアや教職員のよさを生かした協働的運営の推進と学校業務の焦点化を図るとともに、一人一人が自覚と使命感をもって絶えず研究と修養に努め、時代の要請に即応する教育の実践を目指す。

（7）学校における働き方改革の視点

学校行事の見直しなど業務を精選するとともに勤務時間を意識した働き方を推進し、地域の人材を教育活動に取り入れるなどの工夫を行う。

[宮の原地域学校園教育ビジョン]

心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

4 教育課程編成の方針

（1）本校の教育目標を達成するために必要な教育の内容を、教科横断的視点で組織的に配列する。教育内容と人的・物的資源を効果的に組み合わせ、本校の特色を生かした教育課程を編成する。

（2）本年度の重点課題の解決を図る教育課程を編成する。学校経営の方針を柱に、児童一人一人がのびのびとたくましく成長し、安心して学び合える温かな教育課程を目指す。

- (3) 読解力・表現力を育成するため、国語科で培った資質・能力が他教科・領域でも活用できるよう単元配置の工夫や図書館教育との関連、教科横断的な指導を研究・実践していく。
- (4) いじめ・不登校の未然防止を目指し、楽しく活気ある学校、居心地のよい学級づくりを目指す。縦割り班活動や児童会行事等を適切に配置するとともに、時間割の工夫、教科担任制の実施などを通して学年全体を把握できる体制を構築する。
- (5) 気力・体力を増進させ危険を回避する能力を育むため、日々の食育を基盤として、サーキットトレーニング・朝の一分間体操・うつのみや版ミニマム及び各種学習カード・「一日一回外遊び」などの継続、様々な状況に応じた避難訓練や交通安全教室等の実施を推進する。
- (6) 持続可能な社会づくりに参画できる児童の育成を目指し、SDGsの取組を教育活動に取り入れ、環境・人権・国際理解教育をはじめとして横断的なカリキュラムの編成を工夫する。
- (7) 地域の社会・文化的環境、自然環境等を生かした特色ある教育を編成する。特に隣接する高齢者福祉施設との交流、鶴田沼の活用等を工夫する。
- (8) プログラミング教育やGIGAスクール構想、デジタル・シティズンシップ教育に伴うICTの活用、宇都宮学、外国語など、時代の要請に応じた学習の確実な実施を図るとともに、すべての学習の基礎となる読書活動を着実に推進していく。
- (9) 日課を工夫し、児童と向き合う時間や教職員の資質向上を図る時間などを確保する。
- (10) 教育課程の実施にあたっては、実施状況の把握・管理に努めるとともに、評価を通して改善・充実に努める。
- (11) 児童が確かな学力を身に付け中学校生活への不安解消を目指すために、地域学校園内の学校との連携に配慮して小中一貫教育を推進し、計画的に地域学校園あいさつ運動等を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 児童も教職員も、自分のよさを発揮しながら生き生きと活躍できる学校づくりを推進する**
 - 「ほめてのばす教育」の実践
 - あいさつの響く学校づくりの推進
 - ・楽しい授業と居心地のよい温かな学級づくりの推進
 - ・教職員のよさと専門性を生かした、教科担任制や校務分掌
 - ・業務の適正化
 - ・時間を意識した効率的な業務の遂行
- (2) 学習指導
 - 読解力・表現力の育成を基盤に、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」を活用した授業を展開する**
 - 学業指導の充実（「宇都宮モデル」各過程の指導の質的向上を図る）
 - 各教科の基礎・基本の確実な定着と学習規律の確立
 - ・読解力・表現力の育成
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・ICTの積極的な活用
 - ・読書指導の推進
 - 家庭学習の習慣化
- (3) 児童生徒指導
 - 心の教育を充実させ、思いやり、たくましさ、自信や自己有用感などを育むとともに、認め励ます教育を推進する**
 - 「気づく・考える・行動する」児童の育成
 - ・「あいさつ・姿勢・清掃」
 - 規範意識の醸成
 - ・主体性を育む縦割り班活動や異学年交流、豊かな感性を育む体験活動の充実
 - ・道徳科を核とした心の教育の推進
 - ・自信や自己有用感を育む学年・学級経営の工夫
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - 体力の向上・健康の増進を図るとともに、自分の健康や安全に関心をもち、心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する**
 - 望ましい生活習慣・食習慣の形成
 - ・外遊びの奨励「一日一回外遊び」

○教科体育を核とした基礎体力の向上

- ・感染症について正しい知識を身に付け、健康を大切に管理しようとする態度の育成
- ・危険を予測し、自らの命を守り抜くための判断力・行動力の育成

(5) 学校における働き方改革の視点

- ・学校行事・学年行事の見直し
- ・校務分掌における業務の適正化
- ・教科担任制の推進

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-1 (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 90%以上</p>	<p>① 課題解決の意欲をもたせるために, 実生活に関連した教材を取り入れたり, 児童が自力で考える個別最適な学びと, 友達と意見交流をしながら協力して課題解決をする協働的な学びの充実を図ったりして, 学ぶ楽しさを実感できる学習活動の工夫に努める。</p> <p>② 「宇都宮モデル」を意識し, 興味を高める教材の活用や, 本時のねらいを明確に意識させた導入の工夫をすることで児童が主体的に学びに向かう態度を育成する。</p> <p>③ 根拠を明確にして, 分かりやすく伝え, 表現できるようにするために, 自分の考えを言葉で表現する指導を継続的に行っていく。</p> <p>④ 協働的学習活動を通して, 他者と自分の意見を比較しながら聞くことで, 新しい考えや別の考えに気付く, 学びを通じた個のよさを認め合う場の設定の工夫を推進していく。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答は91.4%で, 昨年度より0.4ポイント, 市の肯定的回答より1.1ポイント上回った。</p> <p>保護者の肯定的回答は88.5%で9割以下ではあるが, 昨年度より2.2ポイント, 市の肯定的回答より1.3ポイント上回った。</p> <p>教職員の肯定的回答は86.1%で9割以下であり, 昨年度より8.2ポイント, 市の肯定的回答より10.1ポイント下回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>自分の考えを相手に分かりやすく伝える活動や, 自分と友達の考えを比較しながら学び合う活動を積極的に行うことで, 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うようにする。</p> <p>学ぶ楽しさを児童が実感できるように, 個別最適な学びと協働的な学びが充実できるような授業展開の工夫を行いつつ, 漢字・計算オリンピックなどを通して, 基礎学力を高めていく。</p>

<p>1 - (2) 豊かな心を育む教育の推進</p>	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 95%以上 保護者 95%以上 地域 95%以上</p>	<p>① 毎週一時間の道徳科の授業を実施し、体験活動との関連を図ったり、役割演技を取り入れたりしながら、人を思いやる心、生命・人権を尊重する心、感謝の心、いたわる心を涵養する。</p> <p>② 学級活動や帰りの会等で互いのよさやがんばりを認め合う活動を取り入れ、感謝の気持ちや自己肯定感を育む。</p> <p>③ 人権教育年間指導計画に基づき全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>④ 聴覚障害・視覚障害の方々や昔遊び指導の方々との交流を通して、高齢者への感謝の気持ちやいたわる心を育む。</p>	<p>達成状況】 児童91.9%、保護者95.3%、地域100%で数値指標を達成したが、教職員は91.7%で達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続して行っていく。思いやりの心を育むことができるような活動や、互いを認め合うことができる機会を学年や学級で継続して取り組みながら、自己肯定感を育てていけるようにする。</p>
	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 85%以上</p>	<p>① 個に応じた目標を設定できるような学習活動を設定し、達成感を得られるように工夫すると共に、学習記録を蓄積していくことで児童が自分の伸びを実感し達成感を味わえるように工夫していく。</p> <p>② 教科の学習や特別活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設け、全校一斉漢字・計算オリンピック、キャリアパスポートを活用しながら目標達成に向けて努力する姿勢や過程を称賛する。</p> <p>③ 児童を丁寧に観察し、発想や考え方、活動の仕方などのよさやつまづきの原因などを見抜き、児童に前向きな言葉かけやほめてのばす指導を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は90.1%で、昨年度より0.3ポイント下回るが、市の肯定的回答より8.7ポイント上回った。 保護者の肯定的回答は84.7%で9割以下ではあるが、昨年度より2.9ポイント、市の肯定的回答より3.2ポイント上回った。 教職員の肯定的回答は86.1%で9割以下であり、昨年度より8.2ポイント、市の肯定的回答より8.7ポイント下回っている。 以上のことから、目標には達成していないところもあるが、昨年度より数値は上がってきているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 個の課題や実態に応じた自分の目標を持たせ、目標達成できるような具体的な指導と、努力を褒めて認める声掛けを継続的に行う。実態に合わせたスモールステップ課題を与えることで、児童の自信を高めていく。</p>

<p>1 - (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 90%以上 地域 95%以上</p>	<p>① 学級活動や体育、学校行事等との関連を図った保健指導や生活指導を行い、児童が自ら健康管理に気を付けられるようにする。 ② 学校給食や各教科等との関連を図った指導のもと、家庭と連携しながら栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 日常における安全指導を充実させるとともに、交通安全教室や避難訓練等を計画的に実施し、児童一人一人が危機を予測し自ら命を守り抜く行動力を育成する。 ④ 学校生活における感染症防止対策を周知し、感染の予防および感染拡大を防止する意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童、保護者、地域は数値目標を達成している。 【次年度の方針】 学校の教育計画に基づき、健康や安全について、教科・領域・行事との関連を図りながら適宜指導に努めていく。 日常指導や、安全教育を通して、児童が落ち着いて学校生活を過ごす意識をもたせるように努めていく。 学校全体として教職員の健康や食育への意識を高めていけるよう啓発する。</p>
<p>1 - (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 95%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画を見直し、より児童が自らのよさを自覚して夢や目標に向けて取り組もうとする態度を育む。 ② 学級活動や児童会活動等を通して自分の役割を明確にし、集団の一員としての自覚や自己有用感を育む活動を展開する。 ③ 自他のよさを認め合う活動や人権週間での取組を生かした掲示物を作成することで、自分や友達のよさを再認識し、自己肯定感を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童は90.9%と数値目標を達成できているが、教職員は86.1%で達成できていない。今後も継続して取り組んでいく。 【次年度の方針】 継続して自分のよさや成長を実感することができるような機会を設定していく。互いを認め合う活動に取り組みながら、掲示物等を作成し、いつでも自他のよさを感じることができるようにする。</p>
<p>2 - (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童 85%以上 教職員 85%以上</p>	<p>① 外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語の授業において、ALTと児童、児童相互でのやり取りの場を積極的に設けることで、ICTだけに頼ることなく、相手を意識してコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ③ ALTによる読み聞かせ等の機会を設け、英語に慣れ親しめるようにする。 ④ 児童が外国語を身近に触れ、表現により慣れ親しむことができるよう、外国語表記の掲示物等を置くなど環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は児童、82.0%、教職員75.0%であり、児童は目標数値よりもわずかながら下がったが、教職員の目標数値は10ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度同様、外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、ALTと児童、児童相互でのやり取りの場を積極的に設ける。その際、ICTだけに頼ることなく、対面でのやり取りの場を設定する。</p>

	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 75%以上</p>	<p>① 生活科や社会科、道徳、総合的な学習の時間の授業において、学習内容と関連させたり、児童が作成した新聞等を校内に掲示・配置したりすることで、宇都宮市のよさに気付く指導を図る。</p> <p>② 年間計4回の郷土に因んだ給食（宮っ子ランチ）や地域でとれるお米から、宇都宮の農産物や歴史などに触れ、食への感謝や郷土愛・食文化を育むようにする。</p> <p>③ 学校長の話、児童会活動等で、宇都宮市と関わりのある内容のものを取り入れる。</p> <p>④ 図書室前のスペースを宇都宮学のコーナーとし、宇都宮市のよさを感じられるように工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答は、86.8%で、教職員は88.9%で目標数値よりもわずかながら下がったが、保護者の目標数値は5ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>図書室前の宇都宮学コーナーを活用し、児童が作成した宇都宮学に関連する新聞等を校内に掲示・配置したりすることで、宇都宮市のよさに気付く指導を図る。</p>
<p>2 - (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 85%以上</p>	<p>① 授業において、児童が積極的にICT機器を操作・活用することにより、コンピュータや情報通信ネットワーク等に慣れ親しみ、適切に活用する能力を育てる。</p> <p>② 図書の活用やICT機器の操作をする中で、正しい情報を選択したり、適切に活用したりするなど、情報モラルの育成を図る。</p> <p>③ 授業における図書館資料の活用方法や司書との連携の仕方を工夫していく。</p> <p>④ 読書の時間や読み聞かせの時間、校内読書週間等の活動を通して、児童の読書意欲を喚起する。</p> <p>⑤ 図書室と各学年の図書資料の展示方法を工夫したり、おすすめの本を紹介する活動をしたりすることで、児童が気軽に図書資料に触れることができるよう環境を整える。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童、教職員、保護者の肯定的回答は、それぞれ88.8%、100%、83.7%であった。保護者は数値目標を下回った。</p> <p>日々の授業の中で、教職員が積極的にデジタル機器を活用することにより、児童も活用の機会が増え、適切に活用する能力が育まれている。また、司書教諭と連携して、図書を活用した活動を多く取り入れた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続きチャレンジ図書を推進したり、読書週間を工夫したりするなどして、児童の読書意欲を高める。</p> <p>ICT機器を授業等に積極的に取り入れ、児童が効果的に活用できる力を高めていく。</p> <p>ホームページ等を活用して、ICTや図書の活用の様子を発信する。</p> <p>児童や教職員の図書の希望をとり、図書を選定していく。</p> <p>デジタル機器の使い方の研修等で実践例を共有し、全職員が使いやすい環境を整える。</p>

<p>2 - (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 80%以上</p>	<p>① 職員室前に SDGs についてのコーナーを設けることで、SDGs をより身近に感じることができるようになり、日常生活の中に自然と SDGs の概念が溶け込むようにする。 ② 生活科や社会科、総合的な学習の時間等の学習において、生き物や環境への関心を高め、回りの環境と調和しながら生活できるような実践力を身に付けるようにする。 ③ SDGs について身近な言葉で身近な取り組みと関連付けて話すことで、意識できるようにする。 ④ 図書室の本や各学級文庫で SDGs について取り上げ、気軽に本を手にとって読むことができる環境を取り入れる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は児童が、92.3%、教職員が86.1%であり、児童は概ね達成できている。教職員の数値は昨年度より10ポイント以上上がっている。 【次年度の方針】 SDGs について身近な言葉で身近な取組と関連付けて話したり、職員室前の SDGs についてのコーナーを紹介したりすることで、SDGs をより身近に感じることができるようになり、日常生活の中に自然と SDGs の概念が溶け込むようにする。</p>
<p>3 - (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 90%以上</p>	<p>① 特別支援コーディネーターやSCM、かがやきルーム担当、児童指導主任を中心として、特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援体制を構築する。 ② 特別支援教育に関する基本的な考え方について研修を行い、全職員で共通理解を図り、適切な手立てを取り入れ、インクルーシブ教育の更なる推進に取り組む。 ③ 校内対策委員会や校内支援委員会を適宜開催したり、QU研修会を実施したりして、個に応じた支援計画を再検討し、全校体制での支援を行う。 ④ 個別の支援計画に基づき、教員同士が連携しながら合理的配慮に伴う指導に努めるとともに、適切な支援が行えるよう、かがやきルーム・SC・サテライト校としての通級指導教室の効果的活用を推進したり専門機関と連携を図ったりする。</p>	<p>【達成状況】 特別な支援が必要な児童については、特別支援コーディネーターやSCM、複数のかがやきルーム担当、サテライト校の設置による通級指導教室担当、児童指導主任を中心にして職員間で共通理解を図りながら、担任と共に個に応じた支援を行ってきた。結果97.2%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 特別な支援を要する児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行っていく。</p>

<p>3 - (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 100%</p> <p>教職員 100%</p> <p>保護者 85%以上</p> <p>地域 95%以上</p>	<p>① 「いじめほどの児童にも起こりうる」との認識のもと、未然防止策の充実を図り、いじめの起こらない学級づくりや人間関係づくりに取り組む。</p> <p>② いじめを早期に発見できるように児童が相談しやすい環境を整備するとともに、教育相談やアンケート等を通して児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。</p> <p>③ いじめ事案の対応の際には、全教職員の協働体制と同一歩調のもとに、「組織的な対応」を心掛ける。</p> <p>④ いじめや児童間トラブルがあった際には、見逃さずに丁寧に対応するとともに、随時保護者にも連絡する。</p> <p>⑤ 各種便り・学校ホームページ・学級懇談・いじめゼロ朝会などで学校での取組を発信するとともに、取組の理解と周知に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童・教職員・地域住民の肯定的回答はそれぞれ、97.4%、100%、100%で、高い数値を示しているが、保護者は84.0%で、差が大きい。いじめゼロ強調月間の取組やいじめゼロ集会、いじめに関する道徳授業等、全校体制でいじめ防止に取り組んできた。今後も「いじめは決して許されないこと」を、全教育活動を通して継続して指導していく。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>いじめの未然防止・早期発見・組織対応を心掛ける。児童が相談しやすい環境を整備するとともに、児童理解を深め、信頼関係のさらなる構築に努める。学級内での指導だけでなく、各種たよりや学校ホームページ、学級活動、いじめゼロ朝会などを通して、いじめ防止に向けた取組を積極的に発信し、学校の方針や取組に理解と協力が得られるようにする。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 95%以上</p> <p>教職員 100%</p> <p>保護者 90%以上</p>	<p>① 「学校が楽しい」「学校は居がいがある」と思えるように、教職員が、児童と温かいかわりをもつように心掛ける。</p> <p>② 学年内、学校内で行き渋り児童の情報を共有し、多角的な視点できめ細やかな早期対応を行う。</p> <p>③ 部会やケース会議等で、児童の状況に合わせて達成できそうな目標を設定して、校内資源（人や場所）及び個人用タブレット端末のクラスルームを活用しながら、組織的・計画的に支援を行う。</p> <p>④ 保護者の心情を踏まえた上で、保護者の理解や協力を得ながら外部機関と連携し、支援を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>「姿二小不登校対策マニュアル」の柱「子供の欠席に対して敏感に温かく対応～心のサインを見逃さない～」をもとに、新たな不登校を生まない取組を全校体制で行ってきた。教職員の肯定的回答は、100%であるが、保護者は90.2%で教職員と差がある。また児童は昨年度より1.3%低下して数値目標に届かなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>教職員が研鑽を積み、児童が楽しいと思える学級づくりを心掛けながら、児童の欠席に対して、迅速かつ温かい対応を心掛ける。職員間で情報を共有しながら、新たな不登校を生まないように全校体制で組織的に取り組んでいく。</p>
<p>3 - (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3 - (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 95%以上</p> <p>教職員 95%以上</p> <p>保護者 90%以上</p> <p>地域 95%以上</p>	<p>① 一人一人の児童の人格を尊重し、児童主体の活動を展開する。</p> <p>② 児童に成就感を抱かせることができるように、「ほめてのばす」指導に教職員が協力して取り組んでいく。</p> <p>③ 全校児童による挨拶運動強化週間を定期的に設ける。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童は96.7%で教職員は100%で地域は100%で数値指標を達成している。保護者は88.3%で達成できていない。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>今年度の取組を継続して行っていく。児童主体の活動を「ほめてのばす」ことを意識し実施していくことで、一人一人の児童が明るく生き生きと学校生活を送ることができるようにしていく。</p>

<p>4 - (1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 90%以上</p>	<p>① 基本的な学び方（姿二小学習スタンダード、学習基盤づくり）や宇都宮モデルを共通理解し、学習規律を確立させた落ち着いた学習環境の中で分かる授業を目指し、指導方法や指導形態を工夫する。 ② 授業の「めあて」や「ねらい」を明示し、児童と共有することで児童の学習に対する意識を高める。 ③ 分かる喜びや「できた」という達成感を味わう授業実践をしたり、授業終わりに学習のまとめや振り返り活動を行ったりすることで、児童自らが自分の学びを実感できるようにする。 ④ ペアやグループ活動での学習が深まるような指導・支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は96.1%で、昨年度より0.7ポイント下回り、市の肯定的回答より0.3ポイント下回った。 保護者の肯定的回答は89.7%で9割以下ではあるが、昨年度より3.9ポイント、市の肯定的回答より2.6ポイント上回った。 教職員の肯定的回答は100%で、昨年度より2.9ポイント、市の肯定的回答より0.5ポイント上回っている。 以上のことから、目標は達成しているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 授業の導入で、めあてを明確に示し、学んだことを分かりやすく終末でまとめるなど、児童が「分かった！」と実感できる授業を目指す。 個々の伸びや課題を見極め、特別支援教育の観点を取り入れた個に応じた支援や手立てを工夫する。</p>
<p>4 - (2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 90%以上</p>	<p>① 要請訪問や児童指導等について学級担任だけに任せず「チーム」で取り組めるように、学年やブロックの組織を生かし、声を掛け合って取り組んでいく。（一緒に考えられる人間関係の構築、学年やブロックでの朝会を取り入れた学年やブロック経営等の実践。） ② 校内の問題（児童指導等）、行事等への取組の大変さの共通認識を持つことやよりよい協力体制の構築のために、共通理解の方法の工夫に努める。（問題の見える化（事実と手立て、その後の取組などの共通理解）をし、掲示板や紙を利用した有効な発信方法を意識した工夫を行う。）</p>	<p>【達成状況】 職員間で情報を共有しようとする雰囲気や醸成された。教職員の肯定的回答は97.2%と数値目標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、「チーム姿二」を合言葉に、教職員のそれぞれの強みを生かし、互いに高めあうことのできる組織運営に努めるとともに協働性を高めることに視点を置く。また、困難を感じる業務や課題点について気軽に相談し、助け合える雰囲気やシステム作りをさらに進めていく。</p>
<p>4 - (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 80%以上</p>	<p>① 業務を進めるための見通しが持てるように、仕事の進め方の計画を立て、適切に分担をして取り組む。 ② 学校行事等の精選、実施内容の見直しを行うとともに、総合的な学習の時間の時数の取り方の工夫に努め、長期休業明けなどにゆとりをもって生活できるように努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は、83.3%で、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 職務内容の改善を図ったり、作成した教材等を学年間で共有したりすることで、さらなる業務の効率化を目指す。他校からの有効なシステムを取り入れ、さらなる業務改善を目指す。</p>

<p>5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 90%以上 保護者 85%以上 地域 95%以上</p>	<p>①「小中一貫教育・地域学校園」制度の検証・見直しに伴い、小中一貫の目、教職員の研修、児童生徒の交流計画などの見直しを図る。 ② 地域学校園便り等の各種便り・HP等で各部会の取組を積極的に発信していく。 ③ 小中で児童生徒に関する情報交換や共有、教科指導等に関する共通の取組等を推進し、9年間を見通した指導・支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童 86.7%、教職員 94.4%、保護者 80.2%、地域 93.8%となり、児童、保護者、地域が数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 小中一貫の活動を継続して行うとともに、中学校を中核とした組織体制の見直しを図り、各部会の活動を見直すとともに地域や保護者への情報発信に努める。</p>
<p>5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 95%以上 保護者 90%以上 地域 95%以上</p>	<p>① 児童にとって地域をより身近に感じることができるよう、地域の活動やPTA・育成会等の活動を紹介し啓発を図る。 ② 地域協議会や関係機関との連携を図り、地域人材の情報を集め、可能な範囲で栄養教諭や学校図書館司書との連携を図る。 ③ 各種ボランティアを依頼し、きめ細やかに児童育成を図り、ボランティアの方々の声を各種便り（ボランティアだより）で紹介するなど地域の教育力を活用した教育活動についての広報活動を充実させる。 ④ 教科横断的な視点をもって活動の見直しを図り、充実を図る。各学年の発達段階や教科等の内容によって系統的に実施する。 ⑤ 直接見学に行けないときは ICT を活用した授業展開を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童 92.3%、教職員 100%、保護者 91.2%、地域 100%となり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 地域の人材を活用したり、市や各種団体による出前授業を積極的に取り入れたりすることで、家庭や地域、企業等と連携した教育活動の充実を図る。</p>
<p>5 - (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員 95%以上 保護者 90%以上 地域 90%以上</p>	<p>① 副校長や学校業務嘱託員、機動班を中心に、日々校内外の巡視を行い、危険箇所の早期発見と迅速な対応に努めるとともに、機動班の来校日を共通理解し見直しをもって環境整備に当たれるよう努めていく。 ② 毎月、教職員による安全点検を実施し、多くの目で危険箇所の発見と対応を行う。 ③ 危機管理マニュアルを整備し、不測の事態への備えを万全にする。 ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止や熱中症予防対策、インフルエンザやその他の感染症まん延予防対策など時期に応じた保健指導や管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、教職員 97.2%、保護者 89.8%、地域 93.3%となり、保護者が数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 利用する人や児童の安全に配慮するために、多くの目で日常の点検を怠らず、危険箇所を発見した場合は迅速に対処し、万全を期す。</p>

<p>6 - (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員 90%以上</p>	<p>① ICT機器の操作だけでなく、授業での活用を積極的に推進したり、教材やデータを共有したりすることでより効果的な活用ができるようにする。 ② 授業におけるICTの活用方法やICT支援員との連携の仕方を工夫していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であった。 【次年度の方針】 情報教育主任やGIGA部会を中心とした校内研修や実践報告などを通して、教職員全体にICT機器を活用した教材やデータを学校全体で共有し、自由に活用し合える環境を整える。</p>
	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 85%以上 保護者 85%以上 地域 90%以上</p>	<p>① 教職員が率先して挨拶を行い学校全体で挨拶が日常化する環境を作る。 ② 道徳科で、挨拶のよさや気持ちよさを実感できるような授業を展開する。 ③ 全校児童による挨拶運動強化週間を定期的に設ける。 ④ 毎月1日を地域あいさつ運動の機会ととらえ、保護者に通知するとともに、PTAや地域と連携しての挨拶運動を推進していく。</p>	<p>【達成状況】 児童・教職員の肯定的回答は、それぞれ88.0%、77.8%で昨年度より低い数値を示している一方、保護者・地域住民の数値は86.6%、100%、と昨年度からの上昇が見られる。 【次年度の方針】 <u>PTAや地域学校園と連携した挨拶の励行を継続していくとともに、児童の発達段階に応じた挨拶の仕方を指導し、習慣化を図る。</u></p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童 90%以上 教職員 80%以上 保護者 95%以上 地域 95%以上</p>	<p>① 「姿二小のやくそく」の共通理解のもと、全職員が同一歩調で指導をする。 ② 他のクラスの問題事案とその対処法(知的資産)を全職員で共有し、他のクラスで同様の事案が起こらないように未然防止に努める。～予防的児童指導の確立～ ③ きまりを守ろうとする姿勢や頑張りを認め、ほめることで規範意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 学校のきまりを職員・児童・保護者間で共通理解し、同じ方向を向いた指導ができるように取り組んできた。児童・保護者の肯定的回答は、それぞれ91.1%、92.3%で概ね目標を達成しているが、教職員は77.8%で数値目標に届いていない。 【次年度の方針】 秩序ある学校生活が送れるよう、教職員間の情報共有と協力体制の構築を図り、継続して指導する。また、全職員が同じ指導方針のもと、指導の機会を逃さないことを心掛け、規範意識を高めていく。</p>

<p>B3 児童は、文章を書いたり、読んだりすることを好んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童 85%以上 教職員 85%以上 保護者 80%以上</p>	<p>① 国語科の授業だけでなく、読む活動と書く活動を相互に結び付けた学習活動の充実を図っていく。</p> <p>② 相手を意識した場面を設定し、相手にわかりやすく表現できる力を育てる。</p> <p>③ 授業の中に書く活動や伝え合う活動を位置づけ、児童の表現する力を伸ばしていく。</p> <p>④ 読書の幅が広がるように、学校図書館司書と連携することで学校図書館教育を充実させ、各学年の授業内容と関連した授業実践や新聞の活用、図書室環境整備などを引き続き行っていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は84.5%で、目標数値より下回るが昨年度より1.8ポイント上回った。 保護者の肯定的回答は79.8%で、昨年度より1.9ポイント上回った。 教職員の肯定的回答は86.1%で、昨年度より5.3ポイント上回っている。 以上のことから、目標には達成していないところもあるが、昨年度より数値は上がってきているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 文章や資料から読み取ったことや分かったこと、思ったことを記述したり、児童同士で交流し合ったりすることで互いのよさを認め合い、自分の考えに自信を持って発信できる学習環境を作るようにする。 <u>児童の学びのよさをほめて伸ばす指導、それぞれの考えを伝えあう活動を積極的に取り入れ、主体的な学びが実現できるようにする。</u></p>
<p>B4 児童は、体育の授業や休み時間に、進んで運動したり、遊んだりしている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%以上 教職員 90%以上 保護者 90%以上</p>	<p>① 縄跳び・水泳・鉄棒など各自に目標をもたせることで、意欲的に取り組むことができるようにするとともに、努力の成果を称賛し、運動への意欲を高める。</p> <p>② 児童会活動で、様々な運動機会を提供する取組を考えて行っていく。</p> <p>③ 「姿ニサーキット」や「パワーアップ体操」の実施により、運動に親しませるとともに、基礎体力や運動技能の向上を図る。</p> <p>④ 家庭に協力を依頼して、運動の習慣化を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童、教職員、保護者とも数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 児童の意欲付けや自分の課題をつかむための一助として学習カードやICTの活用を通して体力向上を図る。 学習指導要領の内容を基に一層の教科体育の充実に努める。 児童会を中心に外遊びの仕方を紹介するなど児童に呼び掛ける。</p>

<p>学校園 共通</p>	<p>B5 児童は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。 【数値指標】 児童 85%以上 教職員 95%以上</p>	<p>① 個に応じた目標を設定したり、個人の変容を見取って称賛したりして、学習における達成感を持ち、自己肯定感を高められるようにする。 ② 学級活動や帰りの会等で互いのよさやがんばりを認め合う活動を取り入れ、感謝の気持ちや自己肯定感を育む。 ③ 学級活動や児童会活動等を通して自分の役割を明確にし、それを称賛し価値づけていく場面を意図的に設定して集団の一員としての自覚や自己有用感を育む活動を展開する。 ④ 児童会や縦割り班活動、学校行事等の機会に、児童の発想を生かし、主体的に取り組めるようにする。また、学級や学年を越えて、多くの教職員で児童の考えや行動を価値付けていく言葉掛けをし、集団の中の自己有用感を高める。 ⑤ グループ学習や特別活動などを通して、教師が児童同士の考えをコーディネートしていく役割を担うことで、個々の考えのよさやがんばりを認め励まし合う場を意図的に設けることで、感謝の気持ちや自己肯定感を育むようにする。 ⑥ 児童会活動を中心とした異学年交流等を通して自分の役割を明確にし、それを称賛し価値づけていく場面を意図的に設定して集団の一員としての自覚や自己有用感を育む活動を展開する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は82.5%で、目標数値より下回るが昨年度より2.1ポイント上回った。 教職員の肯定的回答は100%で、昨年度と同等である。 以上のことから、目標には達成していないところもあるが、昨年度より数値は上がってきているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 児童が自分の変容を感じ、学習における達成感を持てるよう、個に応じた指導や支援を行い、適切に称賛をしていくことで、自己肯定感を持てるようにしていく。 他者と交流しながら学ぶ場の設定や特別活動の充実により、互いの考えの違いを認め合い、学び合える活動を工夫することで、学びに向かう集団として成長していけるよう、教師のコーディネート力を上げる。 今年度の取組を継続して行っていく。 児童が達成感を持つことができるような学習課題や活動を意図的に設け、自己肯定感を高められるようなきっかけをつくる。そして頑張りを認めながら「ほめてのばす」指導ができるように教職員が意識していく。また、児童が前向きになることができるような声掛けを増やしていく。</p>
-------------------	--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成と分かる授業が認められた項目として、「分かる授業（A14）」において、児童の肯定的回答は96.1%、教職員は100%と極めて高い評価を得ており、目標を達成している。また、「主体的に学習に取り組む児童（A1）」も児童の評価が91.4%となり、目標（90%）を上回った。 教職員のチーム力と働き方改革の進展が認められた項目として、「チーム姿二」としての協力体制（A15）は97.2%と、昨年度（91.4%）からさらに向上し、目標を大きく上回った。また、勤務時間を意識した業務効率化（A16）は83.3%に達し、昨年度（74.3%）届かなかった目標（80%以上）を今年度は達成できた。 地域・家庭との連携が認められた項目として、「家庭・地域・企業等との連携（A18）」は、児童が92.3%、教職員が100%、保護者が91.2%、地域が100%とすべてにおいて数値目標を達成しており、良好な協力関係が維持されている。 体力向上と安全確保が認められた項目として、「進んで運動・外遊び（B4）」は、児童の評価が昨年度の80%未満から85.4%に向上し、数値目標を達成した。また、「特別な支援を必要とする児童への対応（A10）」も97.2%と引き続き高い水準にある。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「あいさつ」と「規範意識」の項目として、「時と場に応じたあいさつ（B1）」は、地域住民は100%であったが、児童が88.0%、教職員が77.8%とともに目標を下回り、昨年度よりも数値が下回った。また、「きまりやマナー（B2）」に対する教職員の評価も77.8%と目標に届かず、一部の児童に見られる規範意識の低さが課題視されている。 特定の資質・能力の育成の項目として、「英語コミュニケーション（A6）」が児童82.0%、教職員75.0%であり、ともに目標に届いておらず、特に対面でのやり取りの充実が求められている。「宇都宮の良さの理解（A7）」は児童が
--

86.8%, 教職員が88.9%, 保護者が70.0%といずれも目標数値にわずかに届いていなかった。「読解力・表現力(B3)」は児童の肯定的回答が84.5%となり、昨年度より向上しているものの、目標にはあと一步であった。教職員の肯定的回答も昨年度より下回っていた。「自己肯定感の育成(B5)」では、児童の肯定的回答は昨年度の80.4%から82.5%へと向上しているが、目標値には依然として達しておらず、引き続き「ほめてのばす教育」による支援が必要である。

・ 保護者評価との乖離(いじめ・安全)の項目として、「いじめ指導(A11)」や「安全への配慮(A19)」については、教職員や地域の評価は非常に高いが、保護者の評価は目標値をわずかに下回っており、学校の取組の発信不足や家庭との認識の差が課題となっている。

全体として、今年度は「授業改善」や「教職員の組織力向上」には大きな成果があったが、「児童の生活態度(あいさつ・規範意識)」や「内面的な成長(自己肯定感)」, 「特定の教科(英語・郷土愛)」の分野が次年度の重点的な改善課題としてあげられる。

7 学校関係者評価

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

- ・ 授業内容を先生方がよく研究されていて、子供たちが集中して授業を受けていたことが素晴らしい。
 - ・ 子供たちが楽しそうに活動していて、とても良い印象だった。
 - ・ 廊下の壁の絵画から、学年が上がるにしたがって成長がうかがえた。
 - ・ 先生方はいきいきかつ、堂々と指導している。
 - ・ 4月の頃と比べて、落ち着いて授業をしていて、態度も良くなっている。
 - ・ 授業参観して児童はのびのびとしていて、落ち着いていて良かった。
 - ・ 卒園した児童が声をかけてくれて嬉しかった。小学校で頑張っている児童を見ると、幼児の時期は、小学校に上がる前の大切な時期であることを改めて感じた。
 - ・ タブレットを使った授業を参観して、児童はよく学習していた。
 - ・ 真面目な態度で、授業を聞いている姿が見られた。
 - ・ 情報があふれる社会で、小学校入学をとても大きな壁のように感じていた。先生方のご尽力や、スマホのアプリを通じてのご連絡など、わかりやすく、取りこぼしのない情報伝達や、連絡帳での担任の先生とのやり取りで、とても安心して学校生活を送っている。
 - ・ 先生方は子供たちに丁寧に関わっていて、子供は学校に楽しく通えている。
 - ・ オープンスクールでは授業も分かりやすく、子供たちも真剣に取り組んでいた。日々安心して預けることができている。
 - ・ 子供が今のクラスは楽しいと日々言ってるのを聞くと、安心している。また、担任とも良好な関係を築けている。
 - ・ 先生方は不登校児童に対してとてもよく対応していて、登校できた時はクラスにも馴染みやすいように対応している。
 - ・ 熱中症対策として「暑さ指数」については保護者の車による学校までのお迎え(近所の保護者同士による乗り合い許可も含めて)など、もう少し柔軟に対応できないか。
- 今年度は中学校の文化祭と姿二小のオープンスクールが重なったり、2月の授業参観と中学校の保護者会の日にちが重なったりしたので、来年度は調整してほしい。
- ・ タブレットを毎日持ち帰るのは負担が大きすぎるのではないか。
 - ・ 登下校時の安全面について、真面目に班で帰る子がいる一方で、下校班ではなくバラバラになって帰ったり、通学路ではない道で帰っている子を見かけたりして、心配な面もみられる。
 - ・ 登校班や育成会を抜ける家庭が増え、残った役員の負担が大きくなってきている。
 - ・ 子供たちの登下校では、狭い道路や信号機のない十字路に車両が乗り込んでくることがあるので、危険に感じている。子供たち自身が自分の命を守るという意識ができるように、声を掛けていけるようにする。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

- 地域学校園の重点目標の、自己肯定感を高めるための「ほめてのばす教育」の取組や「あいさつ運動」等の取組を来年度も継続・充実していく。
- 校内において明るい挨拶ができる児童が多いが、個人差もある。場に応じた挨拶として、教職員が先取りあいさつを励行し、児童に手本を示していきたい。登下校時の交通安全ボランティアさんや地域の方への挨拶については、高い評価だったが、教職員の評価が下がっている。今後も意識を継続して中学校やPTAとの連携を図りながら地域を挙げてあいさつの習慣化を促進していく。また、中学校との行事の重なりがないよう連携を図っていく。
- 今後もタブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用しながら、「分かる授業」や「主体的・対話的で深い

学び」の展開，さらには「学業指導」の充実を図っていく。また，学校図書館使用を含め，様々な方法で課題に主体的に学ぶことの楽しさや友達と関わることの心地よさを味わいながら，より一層児童一人一人が生き生きとした学校生活を送れるように努める。

- ・ 学校が示す「姿二小のやくそく」や指導方針を家庭でも共有し，学校と家庭が同歩調で，発達段階に応じたあいさつの仕方を伝えていく。
- ・ 児童が自ら「気づき，考え，行動する」姿を目指していけるように，学校や家庭でも「今はどんなあいさつをするといいかな？」といった問いかけを通じて，主体性を促す。
- 地域学校園では，「ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）」ことを教育ビジョンに掲げているので，あいさつができたときや，自分から進んで声をかけられたときに，その都度認めて褒めることで児童の自己肯定感を高め，次への意欲（習慣化）につなげていく。
- ・ 外国語科や外国語活動では，ICT 機器に頼りすぎるのではなく，ALT（外国語指導助手）と児童，あるいは児童同士が直接顔を合わせて言葉を交わす場面を積極的に設定し，言語や文化について体験的に理解を深め，自分から進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたい。また，授業だけでなく，ALT による英語の読み聞かせなどの機会を設けたり，児童が英語の音や表現に自然に親しめるように日常的な交流も行ったりして，児童が英語を「単なる教科」としてではなく，「他者とつながるためのツール」として実感できることを目指していきたい。
- ・ 各教科や活動を通して，宇都宮の歴史や文化に触れる機会を多く設ける。例えば，社会科，生活科，総合的な学習の時間，道徳などの授業において，学習内容と宇都宮の良さを関連付けた指導を行い，児童が宇都宮について調べたものを「新聞」などにまとめ掲示することで，地域の良さに気付く機会を設けていたり，校長講話や児童会活動のプログラムの中に，宇都宮市に関連する内容を意図的に取り入れたり，食育を通じて給食の「宮っ子ランチ」等で宇都宮の魅力を実感させる取組を行ったりして，学習活動と連動した多面的なアプローチを実施していく。また，「しもつけ民話の会」や地域の方々を招いたり，市や各種団体による出前授業を積極的に取り入れたり，近くにある鶴田沼の活用や，高齢者福祉施設との交流など，地域の環境を生かした特色ある教育を展開して，実体験に基づいた学びを深めていく。令和7年度からは図書室前のスペースに「宇都宮学」のコーナーを設け，児童が作成した新聞を掲示するなど，日常的に郷土の良さを感じられる環境を整えていく。
- ・ タブレットの持ち帰りも含めて，ランドセルの荷物の軽減に関しては必要なものを持って帰るようにしていく。
- ・ いじめ対策については，未然防止・早期発見・組織対応を心掛け，児童が相談しやすい環境づくりをするとともに，児童理解を深め，信頼関係のさらなる構築に努める。各種便りや学校ホームページ，学級懇談，いじめゼロ集会などを通していじめ防止に向けた取組を積極的に発信していく。
- ・ 登校班の編成課題の対策や登下校中のトラブル防止等，地域や保護者，児童安全協力ボランティア等との連携を大切に，学校・保護者・地域が一体となって，児童の健全育成に尽力していく。
- ・ 今年度もPTAや地域の協力を得ながら，運動会，四ちゃんバレーボール大会，4校対抗球技大会，文化祭等，さまざまな教育活動を展開することができた。今後も，児童や保護者，地域の方々の御支援・御協力を賜りながら，教育活動を推進していく。
- ・ 登下校路の安全を確保するため，今後，地域住民や地主の協力により道幅を広くする工事を進めていく。